

## ◆ 住宅探訪記 —ユニテ・ダビタシオンを訪ねて(その2)—

橋爪 恒平

前回、No.9 春号記事の続きから。。。

今回泊まることとなった部屋は、建物全体の中で最もコンパクトでおそらく単身者向けであろう広さの部屋でした。ホテルとして使われている現在は、小さなベッドひとつのシングルルームとして使われていました。共用廊下に通じる入り口の扉を開けると、中で更に部屋が二つに分かれていて、それぞれに部屋の出入り口の扉が付いています。トイレは部屋の扉の手前にあって、2室共同で使います。部屋に入ると一番奥のバルコニーまで見渡せ、外の光がまぶしかったです。奥行きは約8M程ありますが、間口はなんと1.7M程しかありません。ベッド以外に置いてあるものは、小さな机と高さ1.5M程の収納家具、壁面に造り付けの棚がある程度です。シャワー（バスタブはありません）と洗面台は部屋の入り口すぐにあります。

バルコニーは割とゆったりしていて、間口こそ部屋と同じサイズではありますが、奥行きが2M程あります。一番外側に、手すり兼ねて設けられたコンクリートのテーブルが付いていて、椅子が2つ置いてあります。日よけのロールスクリーンが付いていて、部屋から出入りする扉が間口一杯に全開出来ることもあり、部屋と一体で使えそうです。（一昼夜明けた朝食は実際、バルコニーで摂りました。）天井高は2.2M程で、現在の日本の住宅と比べても低いほうです。



宿泊した一室。  
家具の高さが押えられ部屋を広く見せている



部屋と一体的に使えるバルコニー



メゾネットタイプの住戸



年代物の家具と部屋とのバランスも良かった

設計者であるコルビュジェが当時提唱していた「モデュール」という寸法体系に忠実に実行して作られたとのことですが、感想としては狭過ぎず、広過ぎずとても心地のいい部屋だと思いました。部屋の間口も最初は狭いのでしょうか？と思いましたが、壁を一切設けないワンルーム型の為、光は奥まで良く入るので暗さは無く、また適度に家具で仕切られている為、それぞれのスペースで部屋の使い方を区切ることが出来、使い勝手が良かったです。

荷を解き、再び建物内をうろうろしつつ、しばらくした後ホテルのスタッフの人と色々話をしていると、「メゾネットタイプの住人の人が部屋を見せてくれるかもしれないから訪ねてみたら？」と教えてくれました。この「メゾネットタイプ」というのはこの建物の真骨頂の様な部屋で、ホテルとしては使われておらず普通に暮らしている部屋のみだそうです。有名な建物なので、訪ねる人も多く、好意的に部屋を見せてくれる住人が何世帯もあるそうです。

早速、教えてもらった部屋を訪ね頼んでみたところ、快く迎えてもらえました。3人家族（夫婦＋息子）で住まれている、120㎡程の広さでした。玄関から入ると、まずキッチンが有り奥にリビングと上階へ上がる階段、さらに奥にバルコニー。上の階は個室でした。先ほどの客室と同じように極力壁を無くしたプランニングで、メゾネットなので吹抜けがあったりとその為か、元々が大きめの住戸ですが、数字以上の広がりを感じました。家具の選び方や色々な物の仕舞い方など住人の住み方もとても上手で感心しました。

今回最も強く得た印象として、公と私の区別がはっきりしている為か集合住宅というよりはホテルに近い感覚を持ちました。さらにこの建物内だけに限らず、都市、街区、住戸、部屋といったレベルで各階層毎に、その区別が日本より明確であるように感じました。



エントランスの連窓建具



中庭に面する連窓建具

住宅やビルなどで外装に木製建具を使った建物は、近代化が進むほどに少なくなっています。木製建具は、維持管理が難しく、また、気密性や耐久性の面でアルミなどの鋼製建具比べると劣っているように考えられていると思います。

高度成長期が始まるまでは、木造住宅のほとんどが木製で窓や玄関扉をつくっている時代でした。40年ぐらい前に使われ始めたアルミや鉄の鋼製建具は、納まりが複雑で使い勝手も良いとは言えず、改修工事での取替の要望も少なくありません。

建具は、枠や障子をつくる材料だけでなく、ガラスや鍵、戸車などメンテナンスが必要な部材がいろいろあります。こうした中で、木製建具は、修繕や取替をしながら、昔から使い続けられています。建具は、建物全体からみると、やはり、消耗品と言えます。

私自身も住宅などの設計で、木製建具を設計する機会が、今回で6作品目となります。木材の良いところは、木の種類によって、使用する場所を考え、耐久性を持たせたり、建具自体のデザインも柔らかい雰囲気となるところが良いところです。最近では、高气密・高断熱住宅を積極的につくるようになると、木材の断熱性能や調湿性能だけでなく、デザインの可変性やメンテナンスの容易さなどで木製建具の素晴らしさを実感します。

木製建具は、鋼製建具のような耐久性や気密性が欠ける点ありますが、レールや鍵などを工夫して使うことで鋼製建具と同じような性能を発揮できます。

住環境は、金属に覆われたデザインより、自然素材を多用した環境のほうが、本来使い易く、人に馴染んでいる感じがします。木製建具を使った家づくりをすることは、職方の技量が発揮できる貴重な機会でもあり、身近な材料を生かすことができるのも家づくりの良いところだと考えています。

## ◆ 編集後記

住宅探訪記（1面）では、人体サイズを考慮した「モデュロール」という寸法体系の話が出てきました。日本では「メートル」に統一される前は「寸・尺」が使われており、木造建築において基本単位こそ「910mm」などと呼びますが、元は「3尺」を換算したものです。木製建具のお話（2面）も同様で、建物に納まる建具の他、畳や挽き板寸法までもが旧寸法を元に製作され流通している点は見逃せないところです。時代劇の引越シーンで大八車に建具や畳を載せて次の住まいに移動する場面を思い出します。（松村 泰徳）

「アーキテクトキャラバン」は、建築に携わる有志が集まり、その活動内容や住まいに関する情報などを、広く皆様へお届けできる場として、年4回季刊誌形式にて発行しております。

また、住まいの相談会、勉強会なども企画して参ります。ご意見・ご感想・相談等御座いましたら、右記事務局までご連絡頂きます様宜しくお願い致します。

## ◆ 編集メンバー

井戸田 精一	井戸田精一アトリエ
辻 祐司	辻 建築設計室
橋爪 恒平	atelier nest -アトリエネスト-
松村 泰徳	松村泰徳建築事務所

## 編集・発行 [アーキテクトキャラバン]

大阪事務局／辻 建築設計室  
大阪市中央区大手通1丁目3-7  
日宝大手ビル4 F  
TEL : 06-6949-8090  
FAX : 06-6949-8074  
E-mail:tsujiken-tenma1007  
@hop.ocn.ne.jp

奈良事務局／松村泰徳建築事務所  
奈良県葛城市北花内261-5  
松村ビル 2 F - W E S T  
TEL : 0745-69-5938  
FAX : 0745-60-6524  
E-mail:contact@ym-arc.jp  
URL :http://www.ym-arc.jp

Copy right 2010-2011 Architect Caravan All rights reserved